

第 22 回 東海村地域公共交通会議

【日 時】	令和元年 6 月 26 日(水) 13 時 30 分～15 時 30 分	
【場 所】	東海村産業・情報プラザ 多目的ホール	
【出席者】	(委 員)	出席 18 名(うち代理 2 人)／欠席 5 名
	(オブザーバー)	出席 3 名

1. 開会(企画経営課)

2. あいさつ

(萩谷副村長)

- ・ 本日は、大変お忙しい中、第 22 回東海村地域公共交通会議に御出席をいただきまして誠にありがとうございます。
- ・ さて、今年度はいよいよ「いきいき茨城ゆめ国体」「いきいき茨城ゆめ大会」が開催されます。本村では、9 月 29 日から 10 月 3 日にかけ、阿漕ヶ浦公園及び県立東海高等学校を舞台に、ホッケー競技が開催されます。
- ・ 国体開催時は、笠松運動公園で行われる総合開閉会式も合わせて、期間中に多くの方々が本村を訪れることになり、様々なおもてなしが検討される中で、移動手段の確保も欠かすことのできない重要な要素であり、ますます本会議の役割が重要であると考えております。
- ・ 今回で 22 回目となるこの会議は、平成 26 年 6 月に前身の委員会から引き継ぐ形で組織し、本村の地域公共交通のあり方について検討を重ねてまいりました。その間、住民や利用者へのアンケート調査、事業所等へのヒヤリング等を実施するとともに、民間路線バスの可能性について議論してまいりました。その結果、平成 27 年度から路線バスの実証実験、平成 28 年度から実証実験の中からある程度採算性が見込める 3 路線の本格運行化、そして昨年 4 月からは、さらに 1 路線の実証実験を加え、計 4 路線、1 日あたり 61 本もの本数を運行しております。
- ・ デマンドタクシーにつきましても、昨年 4 月から休憩車両の取り扱いを変更するとともに、更なる利便性の向上を図るため、平日を 30 分延長し、17:00 便を新設したところでございます。
- ・ 先日まで開催されておりました 6 月議会におきまして、公共交通に関する質問を 3 件ほどいただきました。いずれも、昨今急増する高齢ドライバーによる重大事故の多発や今後ますます高齢化が進展する状況を鑑み、更なる公共交通網の充実を求めるものでありました。執行部といたしましては、本会議を中心に、今後も利用状況などを注視するとともに、新たな需要の見定めや要望等に耳を傾けつつ、皆様にご意見を頂戴しながら協議を重ねていく旨回答させていただいておりますことから、今後も本会議での議論が重要であるとともに注目を集めることになると考えておりますので、引き続き、様々な立場・視点からの忌憚のない御意見を願います。
- ・ 本日の会議では、全ての議題の説明が終了した後、委員の皆様の御意見をぜひ伺いたいと

考えております。自由意見交換として、こちらから指名をさせていただくこともあると考えておりますので、よろしくお願いいたします。

- ・ なお、現在の委員の皆様は今月末をもって任期満了となります。2年間の任期を務めていただきありがとうございました。本村の地域公共交通の更なる発展のため、引き続き7月以降も委員をお願いしたいと考えておりますので、委嘱の依頼をさせていただいた際には何卒御承認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

4. 協議事項

(1)公共交通の利用状況について

○下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 1)平成 30 年度 公共交通の輸送実績

(資料 2)デマンドタクシー「あいのりくん」年度別利用実績

(資料 3)茨城交通(株)路線バス 年度別利用実績

【質疑・意見】

(委員)デマンドタクシーのキャンセル件数が昨年度と比較して増加しているが、無断キャンセル件数を減少させるため、行きの便の利用者に対し、運転手が声掛けにより帰りの便の予約の有無の確認を行ったり、無断キャンセルが多い利用者へは、予約の時間が近づいた際に予約確認の電話を入れるなどの対策を行っている。

(委員)茨城県として、国体 PR の中で公共交通の PR も実施しているのか。

(委員)国体に関連した PR は他の部署で担当しているが、当課でも実施している。

(委員)デマンドタクシーの車種、台数を教えて欲しい。

(委員)車種はセダンタイプが 5 台、ミニバン(シエンタ)が 1 台の計 6 台。

(委員)デマンドタクシーの予約はどうやってとるのか。また、ルートは誰が考えているのか。

(委員)オペレーターに電話して予約してもらう。ルートを考えているのは、まず予約時にオペレーターが判断し、実際の交通状況を見ながらドライバーが判断する。

(委員)現在手作業で配車をしているのであれば、AIによる自動配車を検討してみても良いのではないか。

(事務局)人による配車のメリットとしては、乗客同士の組み合わせなどに気を配ることができること。相乗りタクシーという性質上、乗客同士のトラブルが起こる可能性がある。しかし、AIによる自動配車は今後の検討事項とし、情報収集していきたいと考えている。

(委員)茨城東病院線の利用者増は、日本原子力研究開発機構の職員の通通勤による影響が大きいということか。

(事務局)そのとおりで、自社バスは構内での運行にとどめ、東海駅から各事業所へは路線バスを活用する方針に切り替えたことの影響が大きい。

(2)地域内フィーダー系統確保維持計画について

○下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 4)地域内フィーダー系統確保維持計画

【質疑・意見】

異議なしのため了承

(3)令和元年度の状況及び今後のスケジュールについて

○下記資料に基づき説明(事務局)

(資料 5)令和元年度 公共交通の輸送実績及び今後のスケジュール

【質疑・意見】

なし

(4)南台区アンケート集計報告

○下記資料に基づき説明(委員)

(資料 6)地域公共交通 南台区アンケート集計報告

【質疑・意見】

(委員)自治会加入率が増加しているが、何か工夫しているのか。

(委員)南台地区は、住居を建て替え、親と一緒に住む住民も多い。そういった方は積極的に自治会に入っている。

(委員)免許返納の問題も大きいと思う。今の高齢者は昔の高齢者とは違い、動けるし車の運転もできる。何歳まで免許を持っていたいと考えている人が多いのだろうか。公共交通への不安がなくなれば、免許返納をする高齢者も増えるのだと思う。

(5)その他

○自由意見交換

(ひたちなか市から、現状の取組み状況について説明)

- ・ ひたちなか市のコミュニティバス「スマイルあおぞらバス」は、運行開始からの累計で数えると19万人となり、市民全員が1回ずつ乗った計算となる。
- ・ ひたちなか市の面積は約100km²であり、デマンドタクシーに向かないためコミュニティバスを運行している。
- ・ 他自治体の取組みの中では、群馬県前橋市の乗合バスの取組みに注目している。

（那珂市から、現状の取組み状況について説明）

- ・ 那珂市のデマンド交通「ひまわりタクシー」は、令和元年度から那珂市内以外に、水戸駅北口及び水戸京成百貨店へ行くことができるようになり、また、12 時便、17 時便を追加し、台数も4 台から最大 6 台での運行と台数を増やし、利便性を向上させた。
- ・ まだ水戸方面への運行は始まったばかりだが、利用者は多い傾向にある。

（会長）

- ・ 自動運転が実現すると、公共交通は厳しい状況になると考えられるが、事業者である茨城交通株式会社としてはどのように考えているか。

（委員）

- ・ 自動運転と比較すると、バスの方が安全性が高いと考えている。新時代の公共交通に向けて対応していきたい。

（委員）

- ・ 海外の例だが、低運賃の飛行機はその会社としては赤字となる。しかし、外から人を呼び込むことで、国としての利便性は上がる。今後は、今よりも広い視野で公共交通を考えていくことが必要である。

（委員）

- ・ 免許返納についての現状の制度については、問題があるのではないか。今後、より免許返納がしやすくなるよう、国には対策を考えてほしい。

○茨城交通株式会社より、消費税増税に伴う運賃改定について説明

異議なしのため了承

5. 閉会（企画経営課）

- ・ 次回は 9 月下旬の開催を予定している。日程が決まり次第、通知をさせていただく。
- ・ 7 月以降の委嘱依頼については、改めて担当から連絡をする。